

京都歴教協 4 月例会（4 / 26）ご案内

京都歴史教育者協議会

【連絡先】〒611-0031 宇治市広野町八軒屋谷 33-1 立命館宇治高校気付 森口 等
☎0774-41-3000 FAX☎0774-41-3555 メール moriguti@ujc.ritsume.ac.jp

第 1 回社会科授業作り実践講座

「考える社会科の授業をどう作るか？」

「暗記ではない、考える社会科の授業をどのように作るのか？」というのは、全ての社会科教師に共通する悩みでもあり、大きな課題でもあると思います。

また、口では「社会科は暗記科目ではない」と、生徒に言っている、実際に出題する試験問題は、結局は、「暗記中心」になってしまう側面もあり、また受験の制約もある事も事実です。

そのような中、「暗記ではない」社会科の授業作りで定評のある実践を行って来られた、辻さん（中学）、北尾さん（主として高校）をお招きして、「考える社会科の授業をどう作るか？」という問題意識を深め合いたいと思います。

新年度早々の忙しい時期ではありますが、みなさんのご参加をぜひ、お待ちしております。

* 日時 4 / 26（土） 15 : 00 ~ 17 : 30（予定）

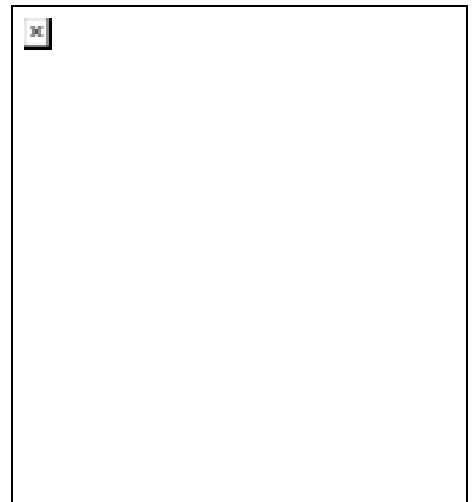
* 場所 同志社大学今出川キャンパス クローバーハウス 2 階

地下鉄「今出川」下車 3 番出口を出て烏丸今出川交差点を東に進み、すぐの木製の門を入り右の 2 階建ての建物の 2 階、市バス「烏丸今出川」（河原町通り方面行き）下車徒歩すぐ

♥報告 その1♥

* 「考える力を育てる授業づくり」辻健司さん（京都市立双ヶ丘中学校）

「国際会議で、議長にとって一番難しいのは、[A] 人を黙らせることと、[B] 人をしゃべらせることだ」というジョークがあるそうです。さて A・B に入る国はどこでしょうか。B が日本だということは予想がつくのではないのでしょうか。では A は？インドが正解です。で、このジョーク、笑っておしまいにはできない重大な問題をはらんでいると思うのです。なぜ日本人はしゃべらないのか。「総じておとなしい国民性」「やっぱり英語が苦手」「この頃の若い人は結構しゃべるが国際会議というシチュエーションだからしゃべらないだけ」など、いいわけもあるかも知れないけれど、そんなことで済ましていいのでしょうか。しゃべらないのは、実は「しゃべれない」のではないか。自分の意見をもっていないのではないか。もっというなら、自分の考えを持とうとしていないのではないか。こんなことでいいのでしょうか。



自分で考えない風潮はいまに始まったことはないでしょう。そして若者に限ったことでもないでしょう。早い話が、戦後の外交政策を考えてみても、自分で考えるのはなく、いつもアメリカの言うことに追随してきたわけで、そうした思考停止状態は今日なお日本の権力中枢にも根をはっているのではないのでしょうか。

マイケル・ムーアの『シッコ』は、アメリカに公的な医療保険制度がないことを告発するなかなかの力作ですが、その中でアメリカの対極としてフランスの制度があこがれと驚きをもって描かれます。なぜフランスはすぐれているのか。ムーアはフランス人がことあるごとに政府を批判し、行動を起こしている点に注目し、デモや集会の映像を連続させています。「フランス政府は国民を恐れている」というナレーションもあったような気がします。行動を起こすには、前もって自分の意見を持ち、意見を持った者同士が気持ちを高め合うことが前提となります。

いうまでなく社会科は主権者を育てる教科です。自分の意見を持ち、それを表明する一方、人の意見も聞き、その上で自分の意見をさらに深化させていく—そういう思考の鍛錬を社会的な事象を取り上げながら進めていかなければいけないと思うのです。

依然として社会科は暗記教科、覚えればよいと考えている生徒が大半です。確かに覚えさせることはたくさんあるのですが、それだけで終わるのではなく、学んだ知識をもとに自分の考えを形成していくことのおもしろさを体感できる社会科をつくって行きたいと思います。

そこで、2006年度3年生で行った授業をふり返りながら、考える授業をどうつくってきたか、生徒の意見をどのように評価すればいいのかなど、事例を示しながら報告をします。

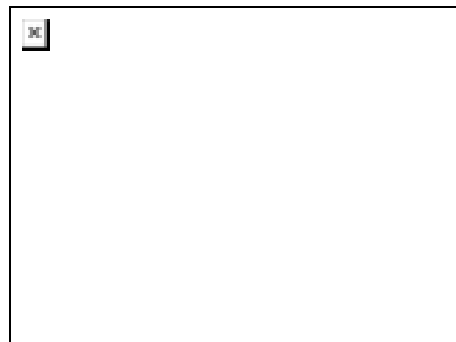
「憲法9条は変えない方がいいのか変えた方がいいのか」、「奈良・放火殺人事件について考える」、「テレビとのつきあい方を考える」、「『家事なんて私ばかり』の記事を読んで考える」などのテーマで、どのような教材を用意し、生徒はどんな意見を書き、それをどのように評価したのか、報告をします。ぜひ活発な話し合いをお願いします。

♥報告 その2♥

* 「考える日本史の授業をどうつくるか」 (北尾 悟 奈良女子大附属中等学校)

生徒が考える授業が必要だとよくいわれるが、どのような授業が「考える授業」なのか授業者によりそのとらえ方は様々である。ただ、私自身公立、私立と様々な学校で何度か公開授業をしてきたが、生徒の助けもあり、多くの参観者から「生徒が主体的に考える授業だ」という評価を受けてきた。ふだんあまり積極的に発言するわけではない高校生たちを、どうすれば授業で少しでも考え、発言させていくことができるのか。

この永遠のテーマを、私自身の教材研究と授業研究の方法を素材にして、皆さんで考えあいたい。



《今から予定をしておいて下さい》

* 5月例会 5/31 (土) 15:00~17:30 クローバーハウスにて

第2回社会科授業作り実践講座

「モノや地域を取り入れた社会科の授業をどう作るか？」

- ・ 早川 幸生さん (向島小学校) 「伏見人形や朝鮮通信使を使った授業」 (予定)